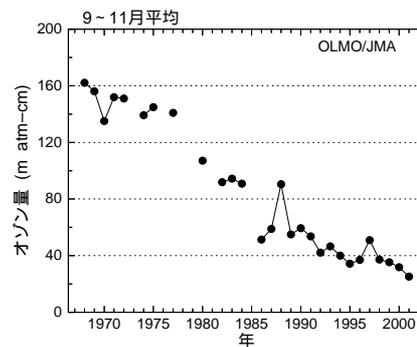
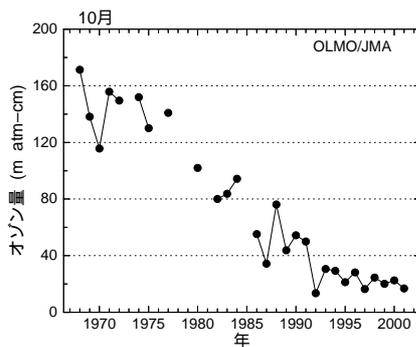
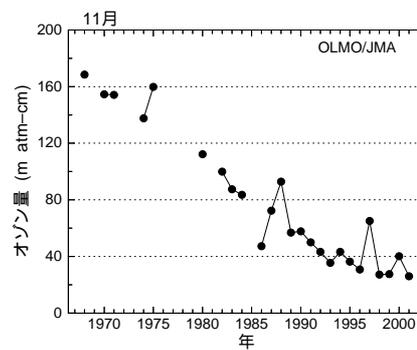
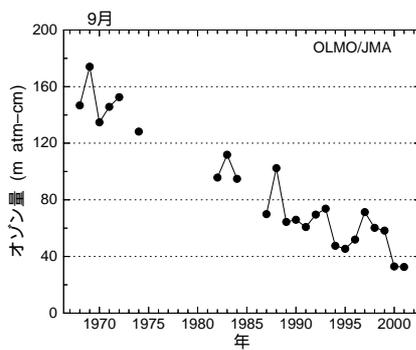


オゾン層観測報告：2001

ANNUAL REPORT OF OZONE LAYER MONITORING:2001



南極昭和基地上空の高度 12-20km のオゾン量の経年変化

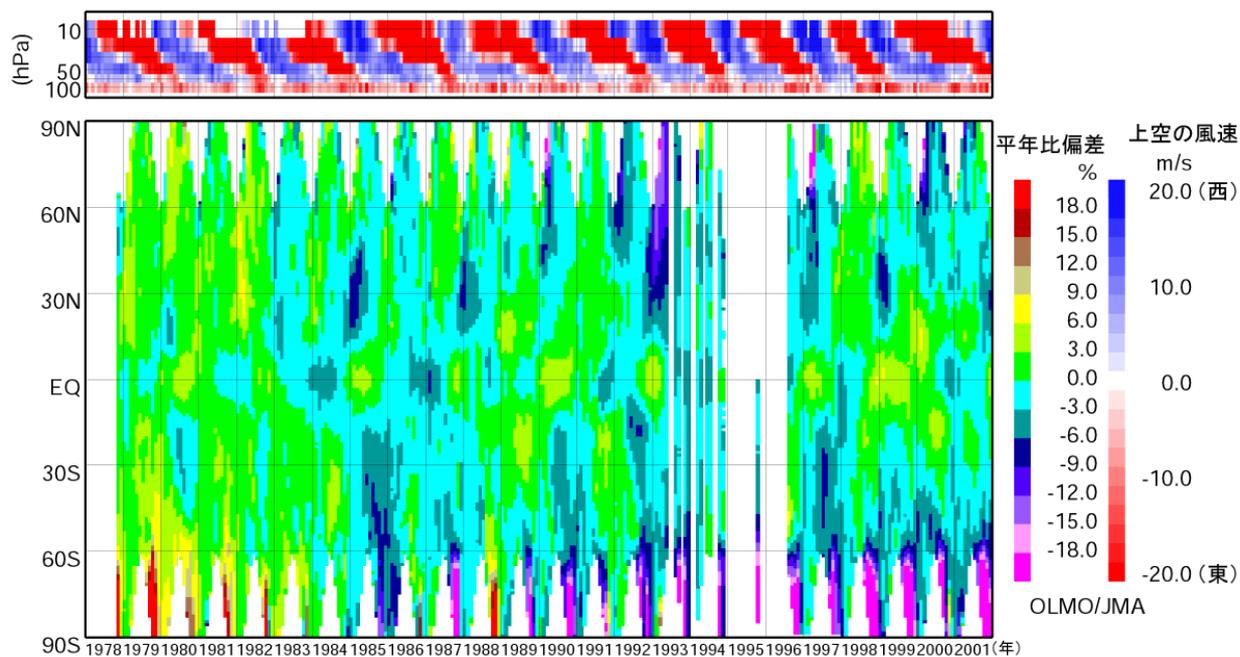
平成 14 年 3 月

March 2002

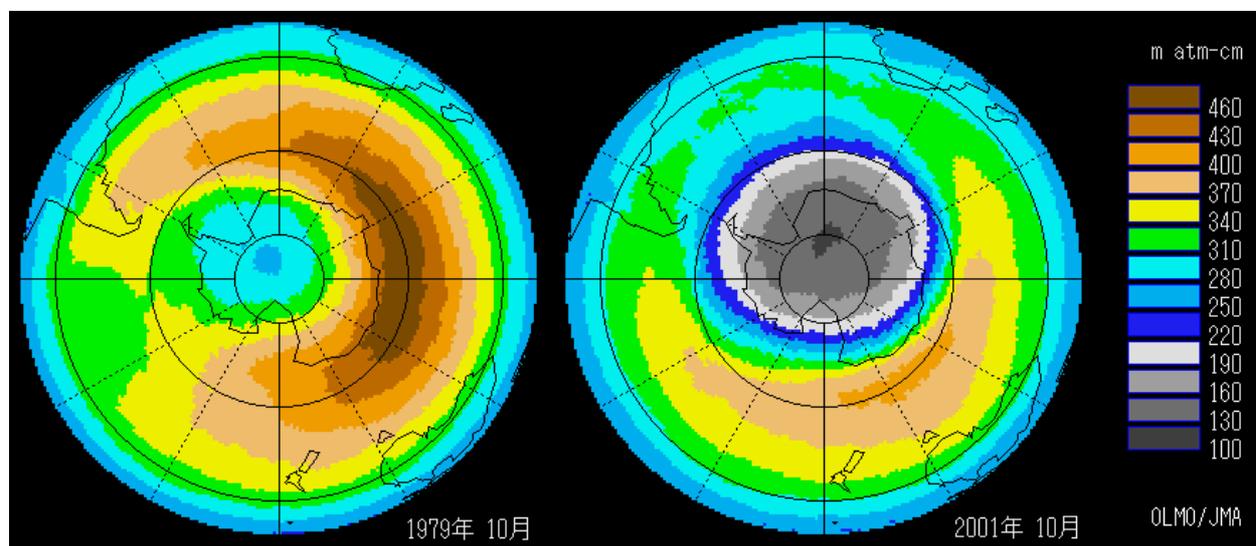
気 象 庁

Japan Meteorological Agency

表紙の図：南極昭和基地上空の高度 12 - 20km のオゾン量の経年変化
観測開始から 2001 年までのオゾンゾンデ観測による高度 12 - 20km に含まれる月平均のオゾン量。

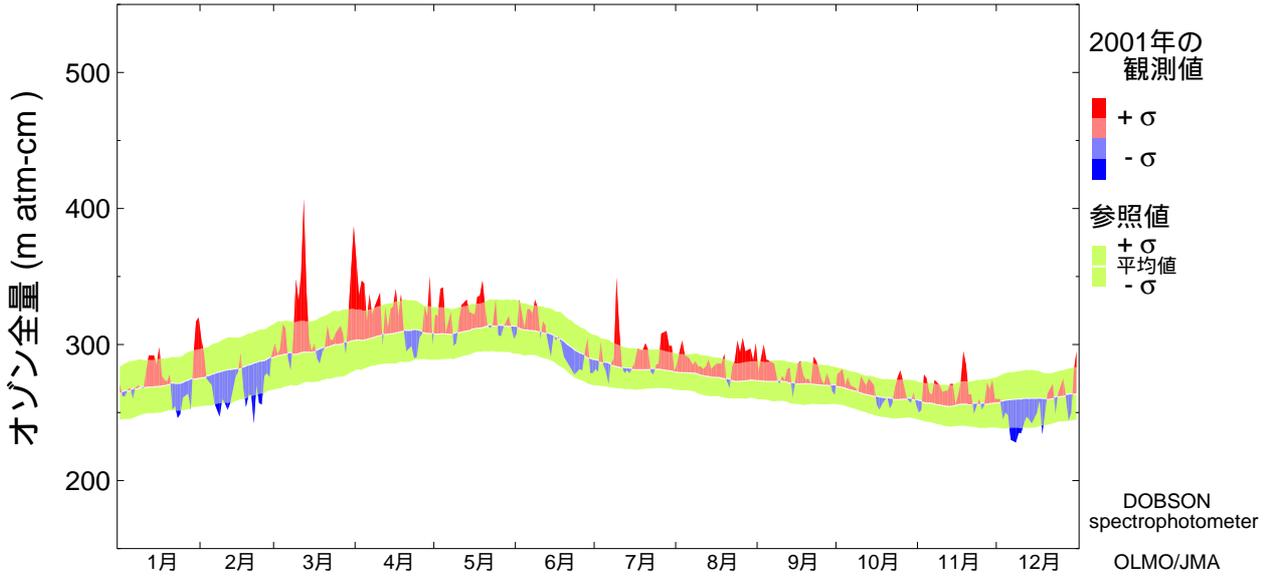


口絵1：衛星データを基にした月平均緯度帯別平均オゾン全量の偏差及びシンガポール上空の東西風の経年変化
 米国航空宇宙局（NASA）提供のTOMSデータを基に気象庁が作成。1993～1996年にかけてTOMSデータがない期間がある。また、東西風については気象庁全球解析値により求めた。



口絵2：南極域のオゾンホール
 1979年、2001年10月の南半球月平均オゾン全量分布図。米国航空宇宙局（NASA）提供のTOMSデータを基に気象庁が作成。

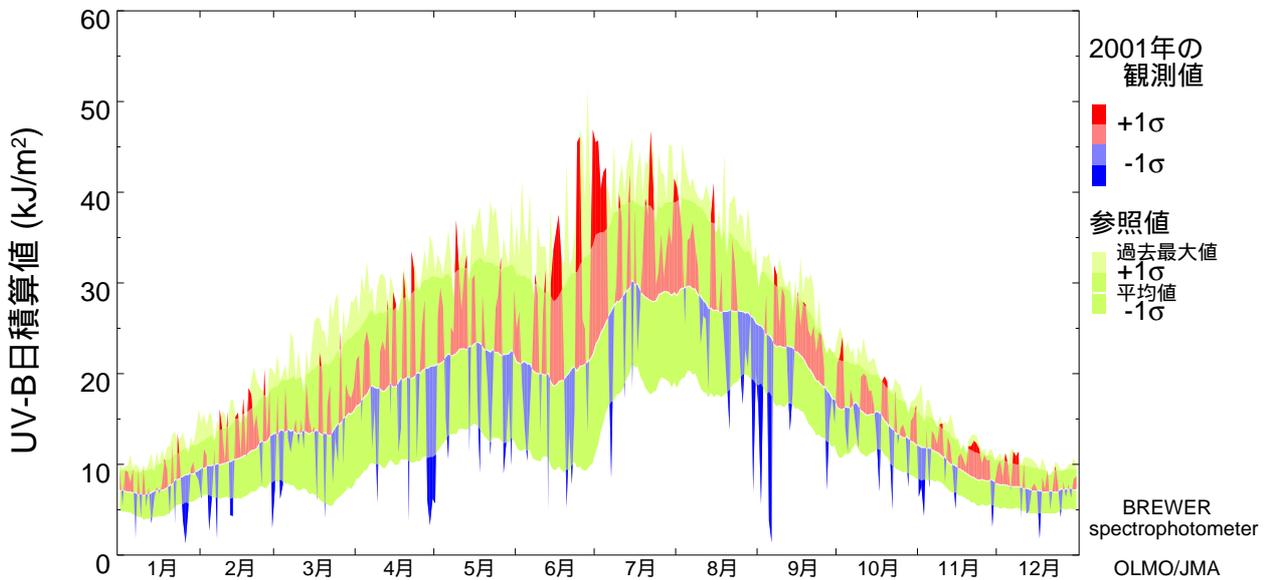
鹿児島



口絵3：鹿児島における日別オゾン全量の年変化

2001年に観測された鹿児島の日別オゾン全量の推移。緑の部分は参照値（1971～2000年の平均）の標準偏差（ σ ）の大きさを表す。

鹿児島



口絵4：鹿児島におけるUV-B日積算値の年変化

2001年に観測された鹿児島のUV-B日積算値の推移。緑の部分は参照値（1991～2000年の平均）の標準偏差（ σ ）の大きさを表し、薄い緑の部分は日別の過去最大値を表す。UV-B量は太陽高度角、雲の状態、オゾン全量、大気混濁度等の影響を受けて変化する。